

ニュースレター *News Letter*

No.22

CHRISTIANITY AND CULTURE RESEARCH INSTITUTE KANTO GAKUIN UNIVERSITY



就任あいさつ

キリスト教と文化研究所 所長 村 椿 真 理

2009 年度 4 月より研究所長に就任致しました村椿です。研究所は、2001 年の開設以来、早 9 年を迎えることとなりました。本学旧「日本プロテスタント史研究所」の遺産を引き継ぎ、一時期活動を休止していた研究所でありましたが、8 年間の歩みの中で見事によみがえりました。現在はキリスト教に関わる分野を専門とする 5 学部の研究者が集まり、20 名の学内研究者、また 41 名の客員研究員を擁するまでに成長し、3 部門、4 研究プロジェクトに分かれ、活発な研究活動を展開しております。

本学が「キリスト教による教育を行なう」との建学の精神を持つ以上、本研究所に託された使命は重く、その意味で本学研究諸機関の中でも「心臓部にあたる」との自覚を抱いて今日に至りました。本学が、我が国の同じキリスト教主義諸大学の中にあって他と異なる点は、本学が他ならぬ「バプテスト」の伝統に根ざす大学であったという所がありました。故に、本学のそうした独自の歴史的伝統を一方では学的に解明しつつ、本学でなければなし得ない諸研究や教育活動、社会貢献が

確かにあるのだということを銘記することが重要であると考えてきました。同時に伝統を超えて、キリスト教主義大学として現代世界に貢献せんとする同じ志を持つ他の大学とも協力し、文化形成に資する学際的研究を一層活発に展開したいと願って参りました。

研究所では既に各会が、年間計画に従い活動を始めていますが、研究所の公的行事としては、9 月 26 日（土）に公開講演会「関東学院の教育—坂田祐の教育理念と白雨会」（坂田研究）が開催される他、「創立 125 周年記念事業」として 10 月 17 日（土）には、公開シンポジウム「バプテストの伝統を持つ教育機関の現代的教育使命—バプテスト 400 年と関東学院建学の精神」（バプテスト研究）が計画されています。また 12 月 23 日（水）には研究所公開セミナーとして、「外から見た日本—異文化の多様性 微笑みの国タイ」（国際理解とボランティア研究）などが予定されています。どうかそれぞれ今からお憶え下さいまして、一人でも多くの皆さまがご参加下さいますようお願い申し上げます。最後になりましたが、今後の研究所の歩みの上に、皆さま方の変わらないご理解とご支援を、これまで通り賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

CONTENTS

就任あいさつ	キリスト教と文化研究所 所長 村 椿 真 理	1
2009 年度所員・研究員・客員研究員紹介		2・3
所員・研究員の広場		4

2009 年度所員・研究員・客員研究員

所長

村椿 真理（法学部教授）
「バプテスト」研究プロジェクト
資料委員会

所員

森島 牧人（学院長・文学部教授）
「国際理解とボランティア」研究プロジェクト
「バプテスト」研究プロジェクト

帆苅 猛（学院宗教主任・人間環境学部教授）
「坂田祐」研究プロジェクト
所報編集委員会

松田 和憲（大学宗教部主任・工学部教授）
「いのちを考える」研究グループ

所澤 保孝（人間環境学部教授）
「奉仕・ボランティア教育」研究グループ

影山 礼子（法学部教授）
「奉仕・ボランティア教育」研究グループ
「バプテスト」研究プロジェクト

安田八十五（経済学部教授）
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト
所報編集委員会

富岡幸一郎（文学部教授）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ
所報編集委員会

細谷 早里（経済学部准教授）
「奉仕・ボランティア教育」研究グループ
所報編集委員会

簗 弘幸（工学部教授）
広報委員会 ホームページ担当

武田 俊哉（工学部准教授）
広報委員会
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

牧野ひろ子（人間環境学部准教授）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

渡邊 光一（経済学部教授）
「奉仕・ボランティア教育」研究グループ

郷原 佳似（文学部講師）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

研究員

精木 紀男（工学部特約教授）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト

小林 照夫（文学部特約教授）
「国際理解とボランティア」研究プロジェクト

Dwight P. Davidson（文学部特約講師）
「いのちを考える」研究グループ
「国際理解とボランティア」研究プロジェクト

矢嶋 道文（文学部教授）
「坂田祐」研究プロジェクト

大豆生田啓友（人間環境学部准教授）
「いのちを考える」研究グループ

佐藤 光重（法学部教授）
「バプテスト」研究プロジェクト

鈴木 公基（人間環境学部講師）
「いのちを考える」研究グループ

客員研究員

川島第二郎（日本バプテスト横浜教会員）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）
資料委員会

三浦 一郎（工学部・経済学部非常勤講師）
「いのちを考える」研究グループ

山本 直美（同志社大学・大阪医専非常勤講師）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ
「国際理解とボランティア」研究プロジェクト

藤原久仁子（大阪大学大学院人間科学研究科グローバルCOE 特任研究員）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト

三井 純人（カウンセラー）
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

田代 泰成（横浜女学院中・高等学校教諭）
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

菊地 昌弥（東京農業大学国際食料情報学部准教授）
「国際理解とボランティア」研究プロジェクト

花島 光男（基督教教育同盟）
「坂田祐」研究プロジェクト

安達 昇（公立小学校教諭）
「いのちを考える」研究グループ

松岡 正樹（日本バプテスト神学校教務主任）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテスト教科書作成準備研究会）

吹抜 悠子（キリスト教メンタル・ケア・センター相談員）
「いのちを考える」研究グループ

長井 英子（経済学部非常勤講師）
「いのちを考える」研究グループ

原 真由美（バプテスト同盟全国女性会副委員長
キリスト教協議会・女性委員）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）
所報編集委員会

伊藤 哲（文学部・経済学部非常勤講師）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

勤田 義治（文学部非常勤講師）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

坂田 創（元関東学院中・高等学校教諭）
「坂田祐」研究プロジェクト

佐々木 晃（元関東学院中・高等学校教諭）
「坂田祐」研究プロジェクト

枝光 泉（日本バプテスト連盟）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテスト教科書作成準備研究会）

田中 喜芳（ニューポート国際大学大学院客員研究員）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

佐々木敏郎（元法学部教授）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）
資料委員会

古谷 圭一（恵泉女学園大学名誉教授）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）

石谷美智子（元経済学部非常勤講師）
「いのちを考える」研究グループ

吉川 成美（永田農業研究所研究員）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

佐々木和之（ルワンダリーチ NGO 現地職員・日本バプテスト連盟国際ミッションボランティア）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

中島 昭子（捜真学院中・高等学校教頭）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

小高 千恵（関東学院野庭幼稚園教諭）
「いのちを考える」研究グループ

大西 純（弘前大学国際交流センター副所長・教授）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

金丸 英子（西南学院大学教授）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテスト教科書作成準備研究会）

加藤 壽宏（中央学院大学商学部 非常勤講師）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

森島 豊（長崎平和祈念教会牧師）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

安井 聖（文学部 非常勤講師・日本ホーリネス
教団西落合教会牧師）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

小林 弥生（カウンセラー・経済学部、人間環境学部講師）
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト

高野 進（関東学院大学名誉教授）
「奉仕・ボランティア教育」研究グループ
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテストの歴史的貢献Ⅱ）

神谷 光信（神奈川県立横浜旭陵高等学校教諭）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

斎藤 剛毅（福岡女学院大学名誉教授）
「バプテスト」研究プロジェクト（バプテスト教科書作成準備研究会）

葛西 賢太（宗教情報センター）
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト

岡西 愛濃（フェリス女学院大学 大学院生）
「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

小玉 敏子（学校法人捜真学院理事長）
「坂田祐」研究プロジェクト

加賀谷 真梨（日本学術振興会 特別研究員、
法政大学非常勤講師）
「いのちを考える」研究グループ

松本 洋幸（横浜開港資料館 調査研究員）
「坂田祐」研究プロジェクト

島田 正敏（関東学院六浦小学校長）
国際理解とボランティア」研究プロジェクト

フランス文学研究から

文学部講師

郷原 佳似

昨年度に本学に赴任したばかりですが、このたび本研究所の所員に加えていただくことになりました。専門はフランス近現代の文学・批評で、これまで、20世紀の文芸批評家・作家モーリス・ブランショ(1907-2003)の著作を中心に研究を行ってきました。研究においては、文学論や小説において「イメージ」と言われるものについて追究することで、「見る」という知覚の働きに還元されない、目を閉じても残るような「イメージ」に接近することを目指しております。今後は対象をより広く取り、文学言語と視覚芸術の関係性という大きな問題についても踏み込むことができると考えております。

西洋を舞台としてこうしたかたちで「イメージ」という問題を立てるとき、キリスト教とその文化がきわめて大きな存在として立ち現れてくるのはいうまでもないことです。研究においては、たえず彼我の文化の差を感じさせられます。私の研究対象であるブランショの小説や評論にも、「イメージ」テーマにとって興味の尽きないヴェロニカの聖散布、また聖トマスの懐疑、ラザロの復活、等等といった聖書のエピソードが繰り返し暗示されております。また最近では、イエスの抱いた「神の国」の「イメージ」を現代的観点から論ずる大貫隆氏の書物(『イエスの時』)や講演に触れる機会があり、「イメージ」テーマにとってのキリスト教の重要性を改めて認識していたところです。

私は中学・高校の6年間、キリスト教の学校に通っていましたが、当時はそのことの貴重さを実感できておりませんでした。しかし大学に入って西洋文化を研究対象とするようになってから、その経験のかけがえのなさを痛感するようになりました。このたび本研究所に加えていただく機会を得ましたので、西洋文化の底流にある「キリスト教と文化」について、いろいろとご教示をいただき、勉強する機会とさせていただきますと思っております。

いのちを考える

人間環境学部講師

鈴木 公基

この度、研究員として「いのちを考える」研究グループに参加させていただくことになりました。私の専門とする教育心理学・発達心理学ですが、特に、学齢期から青年後期までの適応的発達について研究を行っています。この研究グループに参加させていただききっかけとなったのは、前任校時代、神奈川県教育委員会による「いのちを大切に心を育む教育プロジェクト」メンバーとして心理学の立場から関わらせてもらっていたためです。

近年、若者のいのちに対する認識に大きな関心が寄せられています。若者による凶悪事件やいじめ、自殺などの問題を鑑みて、いのちの教育の重要性が叫ばれています。しかし、いざそれを始めようとしても、私たち大人は「何を」「どのように」伝えていけばよいのかわからないというのが現状です。「いのち」に対する理解の不十分さというのは今や子どもや若者たちだけの問題ではなくなっているのだと思います。言い換えれば、大人の問題を若者たちが体現しているだけなのかもしれません。

「いのち」について考えるとき、私たちは漠然と「誕生」、「死」あるいは「病気」などのことばを思い出しがちです。しかし、本当にいのちを考えていくときには、誕生と死の間の「生」に目を向けなければならないと思っています。さらには「私の」「あなたの」といった個人的ないのちから、「みんなの」「世の中にとっての」いのちといったような、より広がりをもった普遍的ないのちについて考えることが必要でしょう。

もちろん、このような考えに至ることができる人は多くはないと思います。大切なのは「いのち」に向き合わなければならないようになったときに、それに向き合えるかどうかということだと考えています。いのちに向き合うチャンスを、またそのコツをこの「いのちを考える」研究を通して見つけ、提言していくことができると期待しております。

関東学院大学 キリスト教と文化研究所

〒236-8501

横浜市金沢区六浦東1-50-1

電話：045-786-7873(研究所直通 月～金曜 9:00～16:30まで)

FAX：045-786-7806(研究所直通 24時間受付)

発行者：村椿 真理

Director: Makoto Muratsubaki